



次期雨期作の準備を継続!

成果 1: 栽培技術



< モデル農家圃場を確認(マリアナ1) >

1. 乾期作の収量調査

ブルト灌漑スキームのラレイア地区にて収量調査を行い、これでFarmers Field School(FFS)全参加農家の今乾期作の収量調査が終了した。ラレイア地区の参加農家は多くはなかったが、単収平均は4.4トン/haと昨年乾期作(3.1トン/ha)よりも良好な結果が示された。

2. FFS乾期作参加農家へのインタビュー調査

インタビュー調査より、91名の参加農家が計66haの土地でコメ栽培を行い、うち33haの土地にGood Agricultural Practice (GAP)が適用されたことが明らかになった。乾期中の適切な灌漑水管理により、大半の農家が収穫を迎えられ、FFS参加農家だけで約200トンの籾を収穫でき、そのうち約30%は既に販売された様子。

3. 次期雨期作に向けた準備

次期FFS雨期作のため、マリアナIとブルト灌漑スキームにおいて計12名のモデル農家を選定した。チャクブ農家組合とアセルダ社のメンバーシッププログラムに参加する農家も本FFSより本格的に参加する予定であり、両サイトで計225名の農家が次期FFS雨期作に参画する計画である。

成果 2: 灌漑管理



< ゲートキーパーに対する実地研修 >

1. タスクグループ(TG)による水利組合再生委員会(WRC)ワークショップ

タスクグループによるファシリテーションの下、ブルト灌漑スキームにおいて11月15~19日の日程でワークショップが行われた。ワークショップでは、水利組合規定、施設維持管理方法、各関係者の役割と責任、情報共有方法などが活発に議論された。

2. ゲートキーパーに対する現地実地研修

頭首工ゲート付近の擁壁修復工事に携わったNTCI社コンサルタントの技師や、パウカウ県およびマナツト県の灌漑職員も交え、ゲートキーパーに対するゲートの通常操作を再確認する実地研修を行った。

3. 灌漑水配分マニュアルの改訂

灌漑水管理短期専門家：大桑氏による灌漑水配分マニュアルの改訂に向けた現地調査が、11月上旬よりブルトおよびマリアナIの両灌漑スキームにおいて開始された。改訂マニュアルは、2022年3月中旬を目途に最終化される予定である。

4. 水路清掃

雨期作が始まる前に、両灌漑スキームにおいて農家が水路清掃を開始した。ブルト灌漑スキームでは既に115名の農家が清掃に参加し、マリアナI灌漑スキームにおいては雨期作が開始されるまでには全ての水路が清掃される予定である。

成果 3: 物流と販売 (民間)



< コメ粉調理研修 >

1. 2022年雨期作のためのチャクブ農家組合およびアセルダ社のメンバーシップ

成果1と連携して、チャクブ組合とアセルダ社のメンバーシップ参加農家がFFS活動に参加する計画立案を支援した。メンバーシップのグループリーダーは、FFSのワークショップに参加し栽培技術を習得することが期待される。

2. チャクブ組合の精米機

チャクブ組合が使用していた精米機は使用20年以上経過し、十分な能力で長時間精米できなくなってきたため、11月19日に新しい精米機を導入した。

3. コメ粉調理研修

コメ加工・商品開発短期専門家：廿日出氏によるコメ粉を使用したお菓子の調理研修がマリアナ灌漑スキームの3つの女性グループに対して実施された。この女性グループは、2019年に前短期専門家により行われた同調理研修にも参加しており、今後のコメ粉製品ビジネスに役立つであろう新たなレシピの調理に挑戦した。

成果 4: 買取と配布 (政府)

1. National Logistic Center (NLC)の籾買取に関するブルト灌漑スキームの村長との面談

ブルト灌漑スキームの5村長への聞き取りの結果、前雨期作にNLCに籾を販売した農家はいないが、アセルダ社を含む民間業者に販売した農家はいることが判明した。昨年、NLCへの販売では籾代金が支払われるまでに時間がかかったが、民間業者はより早く支払い手続きがされること、民間業者へ販売する要因とのことである。

2. コメタスクフォース

経済調整省のGeneral Coordinator と面談し、Joint Dispatchの進捗を確認した。経済調整大臣は、法務アドバイザーにJoint Dispatchのいくつかの修正を指示したという情報があり、プロジェクトとしても進捗を引き続き確認する。